

指導資料

音 楽 第 30 号

鹿児島県総合教育センター

小学校対象
平成 15 年 7 月発行

音楽科における基礎・基本の定着と個に応じた指導 評価規準を生かした学習指導の工夫

新学習指導要領の本格実施から 1 年が経過し、各学校では、基礎・基本の確実な定着に向けて、評価を生かしてどのように個に応じた指導を具体化していくのが課題となっている。

音楽科の学習指導で指導に生きる評価を具体化するためには、指導計画の作成段階において、題材や教材、子どもの実態に基づいて、学習における子どもの姿をなるべく具体的に想定することが必要である。特に、楽曲についてそのよさをどのように感じ取り、どのように表現を工夫しようとしているかという学習の過程における子どもの姿を継続的に見取り、その状況に応じた指導を工夫していくことが大切である。

そこで、音楽科における基礎・基本について共通理解を図り、個に応じた指導のポイントを示すとともに評価規準を生かした学習指導の工夫について述べる。

1 音楽科における基礎・基本と評価規準

音楽科における基礎・基本については、学習指導要領（音楽）に示されている目標及び内容の全体である。これらを資質・能力の面からとらえ、『初等教育資料』平成

14 年 8 月号では次のような内容が述べられている。

- ア 音楽への興味・関心を高め、進んで音楽活動をしようとする意欲や態度
- イ 曲想や楽曲を特徴付けている要素を感じ取って、表現の仕方を工夫したり音楽をつくって表現したりする能力
- ウ 歌い方や楽器の演奏の仕方を自分で身に付けるとともに、読譜に必要な知識を理解して音楽表現に活用する能力
- エ 音楽を聴いて、そのよさや美しさを感じ取ったり味わったり、楽曲を特徴付けている様々な要素を聴き取ったりする能力
- オ 音楽経験を生かして、生涯にわたって音楽を愛好し、生活の中に音楽を生かそうとする心の育成

アからオは、学習指導要領の目標・内容に対応し、アからエは評価の 4 観点にも対応している。つまり、評価規準とは、基礎・基本である学習指導要領の目標・内容が確実に定着しているかを問う指標として、子どもの姿で示されているものととらえることができる。

オの音楽に対する愛好心の育成については、音楽が人の感情に直接働き掛けるものであることから、音楽科が子どもの人格の形成において重要な役割を担っていること

を強調してとらえている。

2 音楽科における個に応じた指導のポイント

音楽に対する感じ方は個別であるので、一人一人の子どもが音楽の学習を進める中でいかに心が動いているか、どのように感じたかをとらえて指導に当たることが重要になってくる。子どもの音楽に対する知識・理解や表現の技能だけでなく、関心・意欲・態度や音楽的な感受と表現の工夫の能力など、情意的側面の高まりを継続的に見取って指導を行うことが大切である。

そこで、個に応じた指導のポイントを次のようにとらえる。

一人一人の子どもが楽しく取り組める表現や鑑賞の活動を設定すること。

音楽に対する感受や表現の技能など、どんな力を高めることができるのかを明確にすること。

子ども一人一人がその音楽のよさをどのように感じ取り、どのように表現を工夫したいと考えるのかを想定すること。

友達や教師とかかわりながら、音楽を聴いたり表現したりして、自分の感じたことや考えたことを通い合わせる場を準備しておくこと。

また、関心・意欲・態度や音楽に対する感じ方や考え方は、表出させなければ見取することはできない。

そこで、子どもたちの状況を見取る工夫を幾つか例示する。

<例1> 範唱や範奏を聴いた時の子どもの感受を見取る工夫

低学年では、身体表現を工夫して反応を見取ったり、標題と結び付けて比喻で問い掛けたりする。

T 歌の「帰りましょう」に合わせて「さようなら」と手を振ってみましょう。（「夕やけこやけ」で、速さやていねいな歌い方に対する感受の見取り方）

また、高学年になるにつれて学習カードや楽譜への書き込みによって感じ取ったことや気付いたこと、どのような表現にしたいかといった感じ方や考え方を見取る。

<例2> 子ども一人一人の技能の高まりを見取る工夫

分担唱や分担奏、リレー唱やリレー奏、交互唱や交互奏に取り組みさせる。また、特に見取りたいところは部分的に取り出して表現させる。その際、子ども一人一人の伸びや課題を的確に賞賛したり指摘したりして意欲が高まるようにすることが大切である。技能分析を行い、課題別に場や形態を工夫したり、小節ごとやフレーズごとに段階的に見取ってフィードバックしたりすることも大切である。

リコーダーの「息使いの練習の場」「指使いの練習の場」「タンギングの練習の場」を設定し、活動の行い方や運指表などの参考資料を掲示する。

<例3> 相互発表における感じたことや気付いたことを交流させる場の設定の工夫

発表者の意図をくんだり、よさを認め合ったりし、意見交換をすることで音楽の感じ方や考え方を高めていく。

3 評価を指導に生かすために

これまで述べてきたことを基に、実際の

授業において評価をどのように指導に生かせばよいかを、第2学年題材「音楽にあわせて」を例にして述べる。

(1) 題材のねらい

本題材では、歌ったり身体表現をしたりして拍の流れを感じ取ること、拍の流れに乗って簡単なリズムを表現することができることをねらいとしている。

「簡単なリズム」とは、1拍となる満と分割リズムである満、それに ♪ と ・ からなる8呼間のフレーズである。

合わせて、リズムや音程、速度などに気を付け 繰り返し模唱や模奏に取り組ませ、範唱や範奏を聴いて演奏する能力を高めることもねらいとしている。

(2) 題材の評価規準

表1 本題材における歌唱、器楽に関する評価規準

活動	評価の観点	具体的な評価規準例
歌唱	関心・意欲・態度	・歌に合わせて自ら体を動かし、楽しく歌唱表現している。
	感受・表現の工夫	・楽曲の気分を感じ取って、身体表現や歌い方を工夫している。
	表現の技能	・拍の流れに乗って歌ったり、リズムフレーズを表現したりする。
器楽	関心・意欲・態度	・身近な打楽器や鍵盤楽器に興味をもち、楽しく演奏活動に取り組んでいる。
	感受・表現の工夫	・歌に合わせて楽器を演奏するよさや楽しさを感じ取っている。
	表現の技能	・拍の流れに乗って、リズムフレーズを打楽器で演奏したり、鍵盤楽器で演奏したりしている。

本題材の歌唱 器楽に関する評価規準は、表1のとおりである。

これを基にして、それぞれの授業場面で具体的に「おおむね満足できる」状況にある子どもの姿を想定する。また、形成的な評価を継続的に行うためには、子どもの姿がどのように変容していくのかを意識して

想定することが大切である。

特に鍵盤ハーモニカの技能については、個人差も大きいので、技能分析を行い、低学年2年間を見越して段階的に高めることができる指導計画を立てる必要がある。

(3) 一人一人の子どもが楽しく取り組める活動の設定

一人一人の子どもが楽しく取り組み、ねらいとなる音楽に対する感受や表現の技能などの能力を高める活動として、リズム遊びやふし遊びを設定する。さらに、旋律に合わせて楽器でリズム奏をする活動や音楽を聴いて手拍子を打ったり身体反応をしたりする活動を設定する。

(4) 指導と評価の具体例

表2 教材における構想

時	主な学習活動()と形成的な評価()
1	<p>範唱を聴いて歌う。</p> <p>1 拍の流れに乗って歌えているか。(関心・意欲・態度、音楽的な感受と表現の工夫)</p> <p>手拍子を打ちながらリズム唱をする。</p> <p>2 拍の流れを感じ取っているか。(音楽的な感受と表現の工夫、1からの継続)</p> <p>階名暗唱をする。</p> <p>3 階名で間違いはないか、音程は正しいか。(音楽的な感受と表現の工夫 1からの継続、表現の技能)</p> <p>オルガンや鍵盤ハーモニカで、フレーズごとに分担奏をする。</p> <p>4 指づかいは正しいか、拍の流れに乗って適当な音量(息づかい)で演奏しているか。(表現の技能)</p>
2	<p>始まりの2小節を伴奏にして歌詞や階名で歌う。</p> <p>5 伴奏を聴きながら、音程や速さに気を付けて歌えているか。(音楽的な感受と表現の工夫、表現の技能 1からの継続)</p> <p>全曲を通して旋律奏をする。</p> <p>6 拍の流れに乗って、適当な音量で演奏できているか。(音楽的な感受と表現の工夫、表現の技能 4からの継続)</p> <p>二組に分かれて輪奏をする。</p> <p>7 お互いの音を聴き合って、音量や速度を合わせているか。(音楽的な感受と表現の工夫、表現の技能 6からの継続)</p>

実際の授業場面では、どのように具体的に

指導と評価を行うのかを教材曲「かえるのがっしょう」における授業場面で説明する。この教材では表2のような展開が考えられる。

さらに、具体的に子どものつまずきや反応を想定し、表3のように支援の計画を立てる。

表3 具体的な働き掛けの構想

 個に応じた指導の場面

過程	時	主な学習活動	予想される子どもの情意面の変容	つまずきを想定した教師の具体的な働き掛け()と形成的な評価()
<p>触れる</p> <p>つかむ</p> <p>深める</p>	1	<p>1 範唱を聴いて歌う。 おんがくにあわせてうたったり、鍵盤ハーモニカで演奏したりしよう。</p> <p>2 手拍子を打ちながらリズム唱をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱を聴きながら ・ 手拍子のみ <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リズム唱を合わせて ・ 二人組になって A児は手拍子 B児はリズム唱 </div> <p>3 階名暗唱をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;"> <p>リレー唱をする。</p> </div>	<p>知っている歌だ。おもしろそうだぞ。</p> <p>よくそろっているな。どうすればいいのかな。</p> <p>手拍子を打つと速さがわかるんだな。</p> <p>二人で合わせられたぞ、楽しくなってきたな。</p> <p>音の高さが合っていないな、どうすればいいかな。</p>	<p>範唱CDを注意深く聴くように指示するとともに、拍の流れに乗って歌えるように、拍の流れに乗っている歌い方とそうでない歌い方を示して意識付ける。</p> <p>1 拍の流れに乗って歌えているか。(関心・意欲・態度、音楽的な感受と表現の工夫)</p> <p><u>拍の流れに乗れない子どもたちのために範唱に合わせて手拍子を打たせたり、手拍子に合わせてタンタンなどリズム唱に取り組ませたりする。また、二人組になって交互に手拍子を打ったり、歌詞で歌ったりするようにする。</u></p> <p>2 拍の流れを感じ取っているか。(音楽的な感受と表現の工夫 1からの継続)できていない子どもには繰り返し指導をする。</p> <p><u>相手よりも大きな声で歌おうと競争をする子どもには、相手の声が聞こえているかを問い掛けたり適度な音量で歌ってみせたりする。</u></p> <p><u>音程が正しくとれない子どもには、階名を書いた白抜きの音符の楽譜を提示し、一つ一つ音程を確かめながら階名模唱に取り組ませる。</u></p> <p>3 階名で間違いはないか、音程は正しいか。(音楽的な感受と表現の工夫 1からの継続、表現の技能)</p>

音楽では、達成とか到達とかいう言葉は適さないと言われる。学習指導要領(音楽)の目標が2学年まとめて示してあることも踏まえ、系統や発展性を考慮した計画を立て、題材の目標をしっかりと定めることが必要である。その目標に照らして実現の状況を見取り、個人内の伸びを賞賛しながら継続的にかかわっていく教師の姿勢が望まれる。

(引用・参考文献)

金本 正武 著『初等教育資料 平成14年8月号』平成14年8月 東洋館出版社

本題材に関する評価規準や評価計画を位置付けた具体的な指導計画、リズム遊びやふし遊びの具体的な展開など活動の詳細については、当センターのホームページ上のカリキュラム支援ページで公開してあるので参照してほしい。

(<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>)

[第三研修室]